

サトウキビ新品種 Ni13 について

宮平永憲・伊禮 信・宮城克浩・島袋正樹・仲宗根盛雄・金城鉄男・大城良計・出花幸之介¹⁾
 前田剛希・正田守幸²⁾・神谷寿幸・恵飛須則明・儀間 靖・小祿博昭・新崎正雄
 (沖縄県農業試験場¹⁾ 農業生物資源研究所放射線育種場²⁾ 果樹試験場)

Eiken MIYAHIRA, Shin IREI, Katsuhiko MIYAGI, Masaki SHIMABUKU Seiyu NAKASONE, Kaneo KINJO,
 Yoshikazu OSHIRO, Kounosuke DEGI, Goki MAEDA, Moriyuki SHODA, Juko KAMIYA, Noriaki EBISU,
 Yasushi GIMA, Hiroaki OROKU and Masao ARASAKI : Characteristic of New Sugarcane Variety Ni13

先島(宮古, 八重山)地域では地下害虫・台風 干ばつの問題から, 新植1作で高収量が得られる夏植を中心にサトウキビ栽培が行われている。しかし, 既存品種では品質 収穫作業性に問題があり, 高糖 多収で収穫作業が容易な代替品種の作出が要望されていた。

本報では同地域向けに新たに育成された Ni13 の特性を報告する。

1. 育成経過概要

1987年に高糖・多収の台湾育成品種「F175」を母本とし, 立茎で易脱葉性系統「RF79-247」を父本に用いて交雑が行われた。以後, 栄養繁殖と選抜を重ね, 特性, 生産力, 地域適応性を検討し, 既存品種よりも優れた特性を有することが評価され, 1999年に農林品種 Ni13 として登録された。

2. 特性概要

1) 形態および育成の特性

新植時の発芽は NCo310, F177 と同程度で, 生育初期から伸長は旺盛である。分けつは少ないが, 中太茎 長茎で, 一茎重は大きい。脱葉は容易で, 茎は地際から直立する。葉焼け病やさび病に強く, 品質低下要因となる亀裂や海面化はない。

株出萌芽性が悪く, 株出時には茎数が減少する。黒穂病抵抗性は極弱と判定された。

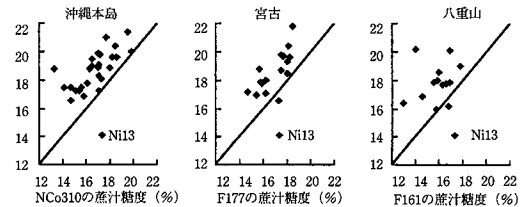
2) 収量および品質の特性

茎数は少ないが一茎重が大きく, F177 と同等以上の原

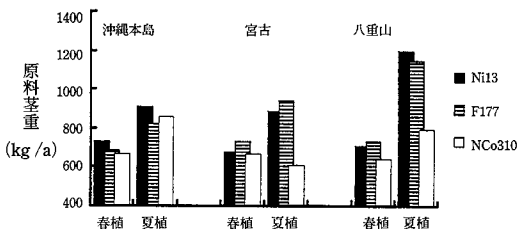
料茎重を確保できる(第1図)。早期より高糖性を有し, 蔗汁糖度は既存品種と比較して常に高い(第2図)。収量が高く蔗汁品質も良いことから, 収量増以上に可製糖量は多い(第3図)。

3. 考察

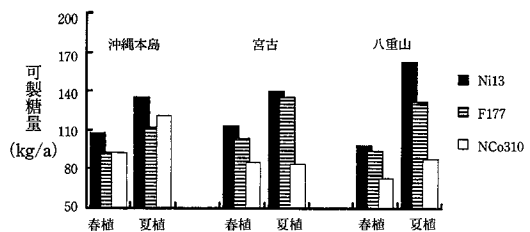
株出性はサトウキビの重要特性のひとつであるが, 先島地域では株出性よりも収量に対する要望が強く, 既存品種の中から多収品種が選択されてきた。しかし, これら品種を用いることにより, 低品質や収穫作業難等の問題が生じている。多収かつ高糖品種である NiF8 の普及により, 収量や品質の問題は改善されつつあるが, 収穫作業については依然問題を抱えている。Ni13 は高糖, 多収, 中太茎で倒伏が少なく, 脱葉も容易である。収穫作業の軽減という点で優れた特性を有し, 人力あるいは機械による収穫のいずれにも適性が高い。同品種を宮古, 八重山地域に普及することにより, 品質向上と省力化にかなりの効果が期待される。



第2図 各地域における Ni13 の蔗汁糖度



第1図 各地域における Ni13 の原料茎重



第3図 各地域における Ni13 の可製糖量